

再造林地でのワラビ栽培の可能性について

1 はじめに

管内の西和賀町は、「西わらび」ブランドのワラビ栽培が盛んな地域です。平成29年度には活着・生長共に良好なワラビのポット苗の供給が始まり、苗(ワラビ根)の確保や植栽作業が大幅に改善されました。同年当センターでは地域経営推進費により、再造林地にワラビを植えて林地から早期に収入を上げ、再造林意欲の向上を目指した実証調査を行ないましたので経過を報告します。

2 植栽地の概要

平成29年6月、スギとヤマザクラの造林地に10m×10mの区画を設け、ポット苗を1.0m間隔(100㎡当り80本)、1.5m間隔(100㎡当り36本)で植えた調査区と無植栽の対照区を設けワラビの生育状況を追跡しました。



【7月11日のワラビの本数確認調査】

3 調査内容

1年経過した平成30年5月25日には、スギ、ヤマザクラいずれの植栽地でもワラビの発生を確認しましたが、ほとんどが苗から伸びた若

芽のようで、活着はしたものの十分な伸長を確認するまでには至りませんでした。

2年経過の今年7月11日の調査では、各植栽区に1.0m×1.0mの区画を3個設け、ワラビの本数を確認しました。

表 ワラビの発生本数 (3区画の平均)

| 区画区分 | 1.0m間隔 | 1.5m間隔 |
|--------|--------|--------|
| スギ区 | 11本 | 7本 |
| ヤマザクラ区 | 7本 | 4本 |
| 対象区 | 0本 | 0本 |

最大はスギ1.0m間隔、最小はヤマザクラ1.5m間隔でした。対照区は0本で未だ自生ワラビが侵入していないためと推定できます。

4 今後の展開

山形県の報告では3年目で全面被覆し4年目から収穫可能とのこと。当地も来年は一部収穫が期待できそうなので、その状況も見ながら林内ワラビ栽培の可能性について、一緒に取り組んでいる西和賀町や森林組合と検討したいと考えています。



【7月11日に発生を確認したワラビ】